

5年生社会科

「自然災害の防止」
指導計画（案）

小単元「自然災害の防止」

1. 本小単元の概要

(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。

(エ) 地図帳や各種の資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身につけること。

(ア) 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。

出典：小学校学習指導要領 平成 29 年 3 月 文部科学省

我が国の国土では様々な自然災害が起こりやすく、自然災害の発生は、私たちの生命や生活、産業に大きな影響を与える。その被害を防止するために、国や徳島県や美馬市などが様々な対策や事業を進めていることなどを、美馬市を流れる吉野川などの水害を題材に調べ、私たちの生命や生活、産業との関わりについて考える。また、自然災害が起こりやすい我が国では国民一人ひとりが防災意識を高める必要があることに気付くようにする。

【捉えさせる内容とねらい】

①我が国の国土では様々な自然災害が起こりやすいこと

■日本の自然災害の概要（全体像）をつかませる。（地震、津波、水害、土砂災害、雪害など）

②自分たちの住む地域では水害が起こりやすいこと

■吉野川流域の地形や気候から洪水や土砂崩れなどの水害が起こりやすいことを捉えさせる。

③吉野川では過去にどのような水害が発生し、どのような水害対策が行われたのかを知ること

■身近な河川の水害や水害対策の歴史を捉えさせる。（河川の変遷、水害対策の歴史など）

④自然災害に備えて国や徳島県、美馬市などが普段から様々な対策を行っていること

■公的機関が国土の保全に努めていることを捉えさせる。（治水対策）

⑤災害時に被害を低減させるため関係機関が連携・協力をして働いていること

■多くの人の働きによって地域の安全が守られていることを捉えさせる。

（避難誘導、救助活動、復旧活動など）

⑥国民一人ひとりが防災意識を高めること⇒水害から様々な災害への展開

■防災の観点からよりよい国民生活の実現を目指す態度を育む。

（自然災害の防止（平常時・災害発生時）の国や徳島県、美馬市等の対策や事業のふり返り）

（水害に加えて、私たちが様々な自然災害に備えてできること）

2.本小単元の構成

【第1時】
日本の自然災害の概要（全体像）をつかむ。

日本では様々な災害が発生している。水害では地形や気候が関係しているようだ。

【第2時】
身近な地域で起こりやすい自然災害について捉えさせる。

気候や地形の関係から、身近な吉野川では洪水や土砂災害が起こりやすい。

【第3時】
身近な河川の水害や治水対策の歴史を捉えさせる。

身近な吉野川でも過去に多くの水害が発生しており、洪水遺跡から洪水被害の大きさなどを知ることができる。

【第4時】
公的機関が普段から行っている水害対策を捉えさせる。

水害から地域を守るために、普段から国や県、市が対策をしている。

【第5時】
災害時に被害を小さくするために働く人々がいることを捉えさせる。

水害による生活や産業への被害を低減するために、様々な人たちが連携・協力している。

【第6時】
防災の観点からよりよい国民生活の実現を目指す態度を育む。

平常時や災害時の対策をふり返り、自分たち一人ひとりの備えやできることを考え実行しよう。

3.評価の目標

- 関心・意欲・態度** ……自然災害について関心をもち、意欲的に調べることを通して、自然災害防止の重要性や国民一人ひとりが防災意識を高め、協力することの大切さを考えようとしている。
- 思考・判断・表現** ……身近に起こりうる自然災害や水害発生の要因について考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。
- 観察・技能** ……我が国で起こる様々な自然災害や、その被害を防止するための国や徳島県、美馬市などの対策や事業について、地図や統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用して具体的に調べ、調べた過程や結果をノートや作品にまとめている。
- 知識・理解** ……我が国で起こる様々な自然災害を防止するために、国や徳島県、美馬市などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。

4.指導計画（6時間）

	学習活動・内容	指導のポイント
1	〔自然災害の起こりやすい国土①〕 我が国で起こる自然災害について調べ、我が国は国土の地形や気候とのかかわりで自然災害がおこりやすいことをつかむ。	我が国で起こった自然災害の発生状況や、発生しやすい理由を、写真や図を活用し学習する。
2	〔自然災害の起こりやすい国土②〕 地形や気候から自分たちの住む地域で起こりやすい自然災害を考える。	水害が発生しやすい理由を、吉野川流域の地形・気候に関わる資料から読み取る。
3	〔洪水と水害の歴史〕 身近な吉野川を題材に水害の歴史や水害対策の歴史を捉える。	吉野川は過去から大きな水害に悩まされていたことを伝える。自分たちの住んでいる近くにある洪水遺跡から過去の洪水被害の大きさを知ることができることや、命や生活を守る先人の知恵を学習する。
4	〔自然災害から暮らしを守るために①〕 身近な吉野川を題材に、水害を防止するために普段から国や徳島県、美馬市などが様々な対策や事業を進めていることについて捉える。	日頃から水害の防止のために働いている組織を知り、多くの人の働きによって安全な暮らしが成り立っていることを学習する。
5	〔自然災害から暮らしを守るために②〕 水害が発生した時に国や徳島県、美馬市などがどういった働きや連携をしているかについて考える。	水害発生時に働く関係機関について理解し、被害を小さくするために多くの人が働いていることを学習する。
6	〔自然災害に備えてできることを考えよう〕 これまでの学習をふり返り、自分たちの身の回りにも水害などの自然災害が起こることを認識し、国民一人ひとりが日頃から防災意識を高めることが大切であることに気付く。	自分たちの住む街の避難所がどこにあるかなどを調べながら、水害などの自然災害が発生した時に備えて自分自身にできることを考える。

「自然災害の起こりやすい国土①」(1/6)



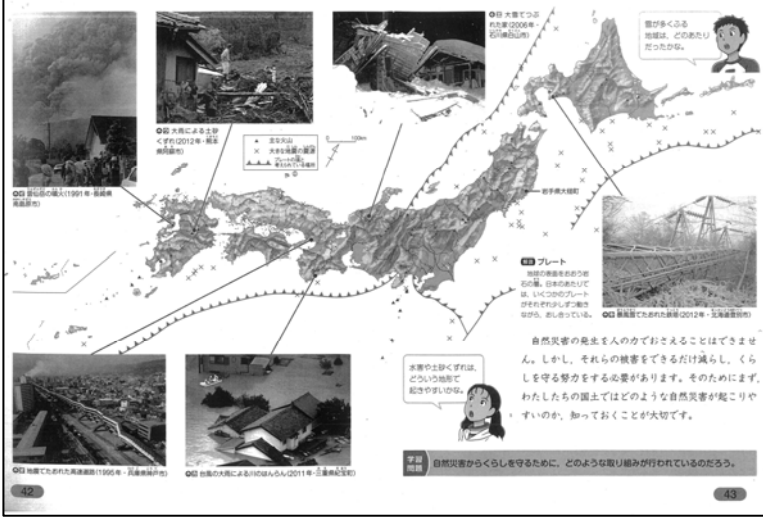
1. 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害の防止」(全6時間)の導入の時間として位置づける。
2. 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 日本には、豊かな自然がある一方で、ひとたび自然災害が発生すると、大きな被害となる。豊かな自然と自然災害は隣り合わせとなっている。 自然災害には、地震、津波、水害(洪水、土砂崩れ)、土砂災害、雪害、火山の噴火などがある。 それぞれの自然災害には、自然災害が発生する要因として、国土の地形や気候が関係している。
3. 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ICT(大型TV)の活用
4. 本時のねらい	<p>日本で発生している様々な自然災害について知る。 自然災害の発生と国土の地形や気候との関係を考える。</p>
5. 教科書(教育出版「小学社会5下」)における振替ページ(P.40~P.43)	

6. 学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書参照）
<p>導入 (10分)</p>	<p>① 6時間で学習する内容を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間目 自然災害の種類と発生要因 ・ 2時間目 吉野川で起こりやすい災害 ・ 3時間目 洪水と水害の歴史 ・ 4時間目 堤防とダムの役割 ・ 5時間目 災害時に働く人々 ・ 6時間目 自然災害に備えてできること <p>② めあてをつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然災害の発生を自分事として捉え考えることを通じて、防災意識の向上や判断力を高めたいことを伝える。 	
<p>めあて：日本では、どんな自然災害が起こっているのか調べよう</p>			
<p>展開 (30分)</p>	<p>③ 我が国で起こる自然災害の種類について考えて発表する。</p> <p>● <u>予想される回答</u> 地震、台風、大雨、洪水、土砂崩れ、竜巻、津波、噴火、雪害、落雷</p> <p>④ 自然災害の発生と国土の地形や気候との関わりについて考える。</p> <p>【地形】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火山 火山が多い ・ 地震 震源地が多い ・ 津波 震源地が多い、海に面している ・ 洪水 土地が低い、川がある ・ 土砂崩れ 山がある <p>【気候】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 洪水、土砂崩れ 雨の量が多い 台風がたくさん来る 大雨が増えている <p>⑤ 水害が起こった時、私たちの生活や産業にどのような影響があるか考えて発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を活用し、災害の恐ろしさを気付かせる。 ・ 災害の種類ごとにグループ分けしていく。 ・ 洪水や土砂崩れは地形と気候の両方に関係していることに気付かせる。 ・ 洪水や土砂崩れなど、大雨によって発生する災害を水害と呼ぶことを導入する。 ・ 水害が私たちの生活や産業に大きな影響を与えることを気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 解説書 P1～P2 「さまざまな自然災害」 ○ 教科書下 P40～P43 「自然災害とわたしたちの国土」 ○ 解説書 P4～P12 「我が国で水害の発生が多い理由」 ○ 解説書 P3 「水害とは・・・」

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書参照）
まとめ (5分)	⑤ふり返りをノートにまとめさせる。 ⑥まとめを伝える。		
まとめ：日本は自然災害が起こりやすい地形や気候となっている。 自然災害の発生は地形や気候が関係している。 水害が起こると私たちの生活や産業は大きな被害を受ける。			

「自然災害の起こりやすい国土②」(2/6)


1. 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害の防止」(全6時間)の導入の時間として位置づける。																																																																																																
2. 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間目で、日本では、地震、津波、水害(洪水、土砂崩れ)、雪害、火山の噴火などの自然災害が起きていることが分かった。 ・自然災害が発生する要因として、国土の地形や気候が関係していることが分かった。 ・身近な地域で起こりやすい自然災害について考えてみる。 ・堤防の役割について知る。 																																																																																																
3. 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(大型TV)の活用 ・グループ単位での学習 																																																																																																
4. 本時のねらい	<p>地形や気候から、美馬市に起こりやすい自然災害を考える。</p> <p>堤防があることで、美馬市では大きな水害が最近起きていないということを知る。</p>																																																																																																
5. 教科書(教育出版「小学社会5下」)における振替ページ(P.40~P.43)	   <p>教科書ページ40の本文: 船が建物の上にとっています。いったい何が起きて、このようになってしまったのでしょうか。2011(平成23)年3月11日、大きな地震のゆれと津波が起きました。震源地を中心としてさまざまな被害が起きました。この「東日本大震災」のように、大きな被害が起きると、電気がガス、水や鉄道などが止まり、広い地域で人々の暮らしにまいきょうをおよぼします。土砂くずれなどで道路がたぎられ、救助のための人や物の移動ができなくなることもあります。台風や大雪による被害も心配です。近年では、地球温暖化のせいさうとみられる集中豪雨が増えており、川のはんえんできれぐれがたがたが起きています。</p> <p>教科書ページ41の表: 日本での自然災害の発生頻度(資料参考 平成27年、以下)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>発生 種類</th> <th>発生 回数</th> <th>発生 地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1981年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>1993年</td> <td>大分県中津川地震</td> <td>1回</td> <td>大分県中津川</td> </tr> <tr> <td>1995年</td> <td>阪神・淡路大震災</td> <td>1回</td> <td>兵庫県神戸市</td> </tr> <tr> <td>1998年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2000年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2004年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2005年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2006年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2011年</td> <td>東日本大震災</td> <td>1回</td> <td>東北地方</td> </tr> <tr> <td>2012年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2013年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2014年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2015年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2016年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2017年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2018年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2019年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2020年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2021年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2022年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2023年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2024年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> <tr> <td>2025年</td> <td>新潟県中越後地震</td> <td>1回</td> <td>新潟県中越後</td> </tr> </tbody> </table> <p>教科書ページ42の本文: 自然災害の発生を人の力で防ぎ止めることはできません。しかし、それらの被害をできるだけ減らし、くらしを守る努力をすることがあります。そのためにまず、わたしたちの国土ではどのような自然災害が起こりやすいのか、知っておくことが大切です。</p> <p>教科書ページ43の本文: 自然災害からくらしを守るために、どのような取り組みが行われているのしょう。</p>	年	発生 種類	発生 回数	発生 地域	1981年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	1993年	大分県中津川地震	1回	大分県中津川	1995年	阪神・淡路大震災	1回	兵庫県神戸市	1998年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2000年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2004年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2005年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2006年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2011年	東日本大震災	1回	東北地方	2012年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2013年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2014年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2015年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2016年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2017年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2018年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2019年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2020年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2021年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2022年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2023年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2024年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後	2025年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後
年	発生 種類	発生 回数	発生 地域																																																																																														
1981年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
1993年	大分県中津川地震	1回	大分県中津川																																																																																														
1995年	阪神・淡路大震災	1回	兵庫県神戸市																																																																																														
1998年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2000年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2004年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2005年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2006年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2011年	東日本大震災	1回	東北地方																																																																																														
2012年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2013年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2014年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2015年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2016年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2017年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2018年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2019年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2020年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2021年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2022年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2023年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2024年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														
2025年	新潟県中越後地震	1回	新潟県中越後																																																																																														

6. 学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書参照）
<p>導入 (5分)</p>	<p>①前回の授業のふり返りを行う。</p> <p>②吉野川流域や美馬市では、どのような自然災害が起こりやすいか子供たちに問いかける。</p> <p>●予想される回答 洪水だと思います →身近に起こりうる自然災害の発生要因について考え、調べる。</p> <p>③めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>めあて：吉野川流域では、どのような自然災害が発生しやすいか地形と気候に着目して調べよう</p> </div>		
<p>展開 (35分)</p>	<p>④吉野川水系流域図や年平均降雨分布図等を配布し、吉野川の地形・気候条件を考え、起こりやすい自然災害を発表する。</p> <p>●予想される回答 雨が多く降るので、洪水が起こりやすい。 川が土地の高い位置を流れているので、洪水が起こりやすい。 山に囲まれているので、土砂崩れが起こりやすい。</p> <p>⑤吉野川で発生した洪水の写真を見せる。 →美馬市で撮影した写真であり、身近にこのような災害が起こる可能性があることを説明する。</p> <p>⑥洪水から私たちの命や地域を守る、被害を小さくするために堤防等の施設があることを学習する。</p>	<p>・写真を活用し、災害の恐ろしさを気付かせる。</p> <p>・堤防があることで、美馬市では大きな水害が近年起きていないということをつまみさせる。</p>	<p>○解説書 P13～P15 「吉野川の概要」</p> <p>○解説書 P16～P17 「吉野川で起きた過去の水害」</p>

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書参照）
まとめ (5分)	⑥ふり返りをノートにまとめさせる。 ⑦まとめを伝える。		
まとめ：吉野川流域では雨が多い。 吉野川の下流付近では土地が低く洪水が起こりやすい。 美馬市や吉野川流域は水害が起こりやすい地形と気候となっている。 洪水が溢れることを防ぐために堤防などの施設がある。			

「洪水と水害の歴史」(3/6)


1. 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害の防止」(全6時間)の展開の時間として位置づける。
2. 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・1～2時間目で、地形と気候が自然災害に深く関わっていること、吉野川の周りでは水害が起こりやすいことが分かった。 ・美馬市でも身近に水害が起こる可能性があることも分かった。 ・水害が起こると私たちの生活や産業は大きな被害を受けるので、洪水が溢れることを防ぐために堤防などの施設がある。 ・吉野川の周りでは過去から大きな水害が起きていた。 ・昔の人が水害から命や暮らしを守るために行った工夫や知恵を伝える。 ・洪水が多く発生していたため、稲作よりも藍作が盛んだったことも紹介する。
3. 学習方法の工夫	・ICT(大型TV)の活用
4. 本時のねらい	吉野川は過去から大きな水害に悩まされていたことを伝える。 自分たちの住んでいる近くにある洪水遺跡から過去の洪水被害の大きさを知ることができることや、命や生活を守るための先人の知恵を学習する。
5. 教科書(教育出版「小学社会5上」)における振替ページ(P.48～P.49)	

6. 学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
<p>導入 (10分)</p>	<p>①前回の授業のふり返しを行う。</p> <p>②美馬市穴吹町の舞中島の今と昔の写真を見せる。</p> <p>③舞中島は、過去に起きた洪水で川中島になったこと、今のような堤防が無かったことを伝える。</p> <p>④堤防が無いとどんな影響があるか子どもたちに問いかける。</p> <p>●<u>予想される回答</u> 洪水が度々起きる</p> <p>⑤めあてをつかむ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">めあて：吉野川の洪水と水害の歴史を調べよう</p>	<p>・吉野川は過去から大きな水害に悩まされていたことを伝える。</p>	<p>○解説書 P18～P19 「洪水と水害の歴史」</p> <p>○教科書上 P48～P49 「水害とのたたかいを乗り越えて」</p>
<p>展開 (30分)</p>	<p>⑥舞中島にある民家に残された洪水の跡や光泉寺の過去の洪水で浸水した深さを示した標柱の写真を見せ、高い位置まで水に浸かったことを伝える。</p> <p>⑦舞中島のイラストや城構えの家の写真等を見せ、水害から命や暮らしを守る工夫を考え、発表する。</p> <p>●<u>予想される回答</u> 石垣で家を高くして浸水するのを防いでいた。 竹林を植え、洪水で流れてくる木などを防いだり、洪水の勢いを弱めたりしていた。</p> <p>⑧洪水によって運ばれてきた土が藍作に適していたこと、洪水が多く発生する時期の前に藍は収穫できるため、稲作より藍作が適していたので全国一の藍の産地だったことを伝える。</p>	<p>・美馬市の洪水と水害の歴史を伝える。</p> <p>・昔の人が水害から命や暮らしを守ってきた知恵を伝える。</p>	<p>○解説書 P18～P19 「洪水と水害の歴史」</p>

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
まとめ (5分)	⑨ふり返りをノートにまとめさせる。 ⑩まとめを伝える。		
まとめ：吉野川では過去に度々洪水が起きていた。 徳島県では台風が来る前に収穫できる藍の栽培が盛んだった。 昔の洪水の跡や水害から暮らしを守るつくりの家などが残されている。 それらから昔の洪水被害の大きさや昔の人たちの知恵を知ることができる。			


「自然災害から暮らしを守るために①」（４／６）

1. 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害の防止」（全6時間）の展開の時間として位置づける。
2. 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・3時間目では、吉野川で水害を防ぐために昔から様々な対策が行われていることが分かった。 ・水害を防ぐために、堤防やダムなどの施設がある。その施設が果たす役割（効果）について学習する。 ・水害の被害を小さくするために普段から行っている備えについて学習する。
3. 学習方法の工夫	・ICT（大型TV）の活用
4. 本時のねらい	堤防やダムがあることで、洪水時にどのような効果があるか知る。堤防の設置や維持など、水害防止に公的機関が関わっていることを知る。
5. 教科書（教育出版「小学社会5下」）における振替ページ（P.44～P.45）	 <p>教科書振替ページの内容は、自然災害から暮らしを守るための取り組みや、津波から守るための避難タワーの重要性について説明している。また、津波から守るための避難タワーの役割や、津波から守るための避難タワーの役割について説明している。</p>

6. 学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
<p>導入 (10分)</p>	<p>①前回の授業のふり返しを行う。 ②水害の防止のために国や徳島県や美馬市がどのような対策を行っているか子どもたちに問いかける。 ●予想される回答 堤防, ダム →堤防やダムなどの施設以外にも水害を防ぐために様々な対策を行っていることを学習する。 ③めあてをつかむ。</p>	<p>・堤防以外にも水害に備えて国などが普段から行っている対策があることを気付かせる。</p>	<p>○解説書 P20～P21 「国などで行われている治水対策」 ○教科書下 P44～P45 「自然災害に強いまちづくり」</p>
<p>めあて：水害を防ぐために普段からどのような対策が行われているか考えよう</p>			
<p>展開 (30分)</p>	<p>④堤防やダムにどのような効果があるか子どもたちに問いかける。 ●予想される回答 堤防：洪水を川に閉じ込める。 ダム：川の水の量を調節している。 →ダム・堤防の効果を、過去の洪水を例にイラストなどを使って学習する。 ⑤洪水による被害を小さくするために、国や徳島県、美馬市で普段から行っていることを写真を使って学習する。</p>	<p>・堤防やダムがあることで、洪水時にどのような効果があるか気付かせる。 ・堤防の設置，維持についての学習で，水害防止に公的機関が関わっていることを捉えさせる。</p>	<p>○解説書 P22 「堤防やダムの効果」 ○解説書 P23 「水害に備えて普段から働く人々」</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>⑥ふり返しをノートにまとめさせる。 ⑦まとめを伝える。</p>	<p>・授業をふり返し，多くの人たちの働きで自分たちの安全な生活が保たれていることに気付かせる。</p>	
<p>まとめ：国や徳島県や美馬市で洪水に備えて普段から様々な対策を行っている。</p>			

「自然災害から暮らしを守るために②」(5/6)

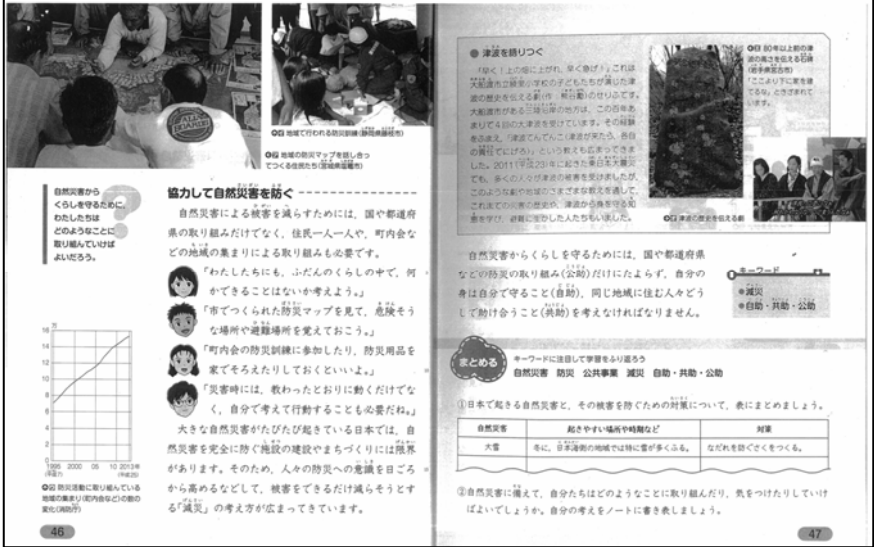
1. 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害の防止」(全6時間)の展開の時間として位置づける。
2. 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・4時間目では、水害を防ぐために堤防やダムなどの施設があり、その施設が果たす役割(効果)が分かった。 ・水害の被害を小さくするために、国や徳島県や美馬市で洪水に備えて普段から様々な対策を行っていることが分かった。 ・災害時に様々な人が協力して、地域住民の安全を守っていることを知る。
3. 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(大型TV)の活用 ・グループ単位での学習
4. 本時のねらい	水害が起こった時に被害を最小限にするために、多くの人々が協力・連携していることについて知る。
5. 教科書(教育出版「小学社会5下」)における振替ページ(P.44~P.45)	

6. 学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
<p>導入 (5分)</p>	<p>①前回の授業のふり返りを行う。</p> <p>②前回の授業でどんなことを学習したか子どもたちに問いかける。</p> <p>●<u>予想される回答</u> 国や徳島県や美馬市で洪水に備えて普段から様々な対策を行っていることが分かった。 →災害時に様々な人が協力して、地域住民の安全を守っていることを学習する。</p> <p>②めあてをつかむ。</p>		<p>○教科書下 P44～P45 「自然災害に強いまちづくり」</p>
<p>めあて：水害が起こった時に、どのような人たちが働いているか考えよう</p>			
<p>展開 (35分)</p>	<p>③水害による被害を小さくするために、どんな人々が働いているか調べる。</p> <p>・イラストの中に職業ではなく働く人々がいることを気付かせる。</p> <p>●<u>予想される回答</u> 堤防を直している人がいる。 避難の情報を流している人がいる。 避難するように誘導している人がいる。 取り残された人をボートで助けに行っている。 けが人を運んでいる人がいる。 切れた電線を修理している。</p>	<p>・災害時に様々な人が協力して被害を最小限に抑えるために働いていることを気付かせる。</p>	<p>○解説書 P24～P25 「水害が発生した際に働く人々」</p>

<p>まとめ (5分)</p>	<p>④ふり返りをノートにまとめさせる。</p> <p>⑤まとめを伝える。</p>	<p>・児童のこれまでの災害に関する体験や報道などから知っていることと結びつけ、多くの人たちの働きで被害が小さくなっていることに気付かせる。</p>	
<p>まとめ：災害が起こった時には、様々な人が協力して、地域住民の安全を守っている。</p>			

「自然災害に備えてできることを考えよう」(6/6)

1. 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害の防止」(全6時間)のまとめの時間として位置づける。
2. 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然災害の防止」のまとめとして、これまでの学習のふり返りや、日頃から防災に関して関心を持つことの大切さについて考える。 ・1～2時間目では、自然災害の一つ、水害が起こると私たちの生活や産業に大きな影響が出ることが分かった。 ・4～5時間目では、様々な人々が洪水の被害を小さくするために活動することが分かった。 ・美馬市では、過去、水害が発生し、今後も起こらないとも限らない。 ・もしもの時に備えて、自分たちでできることは、避難所の場所や連絡先を知ること、安全な避難の方法を知ること、防災に関する情報を知ること、必要な持ち物を用意しておくこと等がある。 ・自分たちの住む場所の避難場所等を確認する活動や、自分たちにできることを話し合うことで、自助の意識を高める。 ・水害以外の自然災害についても同様のことが言え、自分たちでできることを考えることが重要である。
3. 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(大型TV)の活用 ・グループ単位での学習
4. 本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・水害時に自分たちができることを考え、万が一に備えて避難所や必要な準備を調べることができる。 ・水害に限らず、自然災害に備えることが大切であることに気付くことができる。
5. 教科書(教育出版「小学社会5下」)における振替ページ(P.46～P.47)	

6. 学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
<p>導入 (10分)</p>	<p>①これまでの授業をふり返る。 ・日本は気候条件と地形条件により自然災害が起こっている。 ・自然災害が起こると、生活や産業に大きな影響を与える。 ・過去の洪水の跡や水害から暮らしを守る対策などを見ることで、過去の水害の大きさを知ることができる。 ・自然災害を防止するために、国や徳島県、美馬市などが様々な対策を行っている。 ・自然災害の被害を小さくするために様々な人々が活動し、私たちの安全を守っている。 ②めあてを伝える</p>	<p>簡潔に1～5時間をふり返る。 (1～5時間のそれぞれの時間のまとめを発表させる。)</p>	<p>○解説書 P1～P2 「さまざまな自然災害」 ○教科書下 P46～P47 「協力して自然災害を防ぐ」</p>
<p>めあて：自然災害に備えて自分たちができることはなんだろう</p>			
<p>展開 (30分)</p>	<p>③チェックシートを配布し、普段から災害に備えてできていることを確認する。 ④班にさせ、洪水ハザードマップを使って、避難場所を調べさせる。 ⑤土砂災害についてもハザードマップがあることを学習し、避難場所などを家の人と確認しておくことを伝える。 ⑥解説書 P22 の「土砂災害の前兆」を配り、土砂災害の前兆を知り、早く避難することを伝える。 ⑦地震など水害以外の災害の場合は避難所が違う場合があるので、災害の種類にあわせて安全な場所へ避難するように伝える。 ⑧解説書 P26 の「水害に対する心がけ・緊急時の心がけ」を配り、災害に備えて、普段から家庭でできることの大切さを伝える。</p>		<p>○プリント「水害への備えチェックリスト」（解説書 P32） ○ハザードマップ（解説書 P26「水害に対する心がけ」） ○プリント「土砂災害の前兆」（解説書 P27） ○プリント「水害に対する心がけ・緊急時の心がけ」（解説書 P31）</p>

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
展開 (30分)	⑨水害が発生した際に自分たちができることを班で話し合い発表する。 ● <u>予想される回答</u> ・川の水位に注意する。 ・テレビやラジオで天気や防災情報を確認する。 ・お年寄りや子どもを優先し、落ち着いて行動する。 ・避難の呼びかけ、避難指示に速やかに従う。 ⑩水害以外の災害への備えとの共通点を考え、自然災害には備えが必要であることに気付かせる。		○プリント「水害に対する心がけ・緊急時の心がけ」（解説書 P31）
まとめ (5分)	⑪ふり返りをノートにまとめさせる。 ⑫まとめを伝える。		
まとめ：水害に限らず自然災害に備えて、普段から自分にできる備えを行うことが大切である。			

こく とう かつう しょう し こく ち ほつせい ひ きょく
国土交通省 四国地方整備局
とくしま か せんこく どう し むしよ
徳島河川国道事務所
か せんちよう さ か
河川調査課

〒770-8554 徳島県徳島市上吉野町3丁目35

TEL. 088-654-2211 (代)

<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/index.html>